



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4603S		
科目名	ゼミナールⅢ		
担当教員	永沼 淳子		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 4		
講義室	2305	単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 〔学識・専門技能〕 専門分野に関する理論知と実践知を獲得し実践することができる。 DP4-F 〔探求力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP5-J 〔創造的挑戦力・達成力〕 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6-K 〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L 〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M 〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能(40%) F1 探求と論拠(10%) F2 課題解決(10%) J1 継続的学修基礎(15%) K1 ライティング・コミュニケーション(10%) L1 チームワーク(10%) M1 統合的・応用的学修(5%)		
教員の実務経験	特にありません。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対比 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、卒業論文につながる個人研究に関して、実際に歴史文献の収集や、社会調査、事例分析や法学的検討など実証的な研究活動を通じて、オリジナルの一次資料による個人研究の作業を開始し、指導します。授業形態は演習により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れます。 ■キーワード 民法・日常生活の危機・判例研究・卒業論文		

授業の趣旨	■副題 卒業論文の完成に向けた報告と執筆 ■授業の目的 自身が選んだテーマについて、知識を積み重ね、批判的な視点から検証を行った結論を、執筆のルールに則って完成させます。 ■授業のポイント 現行民法は、明治29(1896)年に制定され、120年余が経過しています。120年の間に民法の適用範囲である個人の経済活動や家族関係は大きく変化しているため、公平な判断をするための工夫として、新たな学説や判例変更で対応してきました。したがって、判例を研究することは、実際の社会を知ることであり、また残された課題から未来を知ることにもなります。論文執筆のために文献収集の手法や専門的な論文執筆のルールを体得し、目標に向かって執筆と推敲を重ねることで、自ら考え道を開く力が身に付きます。	
総合到達目標	一般総合目標【GIO】 自身が選んだ卒業論文のテーマに関する知識を深めるために、民法(財産法・家族法)に関する判例研究から発展的な知識を理解する。また、法律論文執筆のルールを理解するために、「執筆要項」および「文献の引用方法」に従って草稿を提出する。 個別行動目標【SBOs】 1.民法(財産法・家族法)の判例研究を行うことで、民法の発展的な知識を説明することができる。(第2回から第15回) 2.判例研究に必要な文献収集と文書作成をする過程で、論理的思考と批判的思考が身につく。(第2回から第15回) 3.卒業論文執筆のために、ゼミナールⅠ～Ⅱで修得した知識を統合することができる。(第2回から第15回) 4.卒業論文のテーマを執筆要綱に従い、文章で理論的に表現することができる。(第2回から第15回) 5.卒業論文執筆の過程で、論点とそれに対する結論を導くための課題解決力が身につく。(第2回から第15回)	
成績評価方法	■卒業論文のテーマに関する報告の完成度・充実度（50％）適用ルーブリックE1・I1・K2（評価の観点）テーマを理解したうえで、問題点の解決方法を適切な言葉で理論的に説明できるかを評価します。 （フィードバックの方法）報告を聞いたうえで、次回へのアドバイスをします。 ■他者の報告に対し、有益な質問をするなどの参加度（50％）適用ルーブリックE1・H2・K1 （評価の観点）法的問題点を理解し、批判的思考による考察の結果を理論的に説明できるかを評価します。 （フィードバックの方法）質問に対する解説を行います。	
履修条件	ゼミナールⅠ・Ⅱを履修し、単位を取得している必要があります。	
履修上の注意点	特にありません。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 卒業論文執筆のスケジュールと執筆要綱の確認と(C1)(M1)、個人報告について説明する(B1)。 ③予習（120分） 卒業論文の構成を考え、目次を作成する。 ④復習（120分） ガイダンスを受けて、目次を修正する。
	2	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジュメ等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジュメ等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習（120分） 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
	3	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆

	②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
4	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
5	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
6	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
7	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
8	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
9	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。

	10	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
	11	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
	12	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
	13	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
	14	①授業テーマ 卒業論文テーマの個人報告と執筆 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(I1)、他者の質問・指摘に対応し(I1)(L1)、それらを踏まえ執筆を継続する(J1)(J2)。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
	15	①授業テーマ まとめ ②授業概要 卒業論文の完成に向け、個人の報告内容を見直し内容に照らし推敲し(E1)(I1)(I2)(J2)、書式や脚注の体裁を確認したうえで(C1)(M1)、論文の第一原稿を提出する。 ③予習(120分) 今までの報告資料を見直し、調査不足の部分や検討途中の項目が存在しないか確認する。 ④復習(120分) 第一原稿の調査不足の部分や検討途中の項目について、再度文献調査を試みる。
関連科目	生活安全と法(RMGT1401)・民法Ⅰ(RMGT2341)・民法Ⅱ(RMGT2342)・民法Ⅲ(RMGT2343)と危機管理基礎演習Ⅰ(RMGT2601)、ゼミナールⅠ(RMGT4601)・ゼミナールⅡ(RMGT4602)と関連します。	
教科書	特に指定しません。必要な資料はゼミナールで配布します。	
参考書・参考URL	ゼミナール内で適宜指示します。	

連絡先・オフィスアワー	■連絡先 第1回講義(ガイダンス)でお知らせします。 ■オフィスアワー 第1回講義(ガイダンス)でお知らせします。それ以外の時間帯を希望する場合は、事前にメール等で予約をすることにより対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%:パブリックセキュリティ10%:グローバルセキュリティ10%:情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学20%:法学80%

